彙報

学会活動記録（平成八年度後期）

◇九月一九日(木)・二〇日(金)　学生委員企画による研修旅行が行われ、淡路人形浄瑠璃館や松帆の浦など、淡路島を巡った。

◇九月二五日(水)～二七日(金)　学生委員企画による研修旅行が行われ、良寛や謙信の遺跡を求めて上越を巡った。

◇一〇月三〇日(水)　学会誌「日本語日本文学」第八号が発刊された。

◇一一月一三日(水)　学生委員企画による映画鑑賞会がＡＶⅢ教室で行われた。廣瀬千紗子先生の解説で、近松門左衛門原作・秋元松代脚本・蜷川幸雄演出の舞台「近松心中物語」の録画を鑑賞した。

◇一一月一六日(土)　学生委員企画による京菓子「鶴屋吉信」「俵屋吉富」見学会が行われた。

◇一一月一七日(日)　学生委員企画による「顔見世鑑賞会」が行われ、京都南座で「梶原平三誉石切」「弁天娘女男白浪」などを鑑賞した。

◇一二月一二日(木)　本年度学会奨学金の授与式が行われ、選考を経た九名の学生に奨学金が授与された。
また学生委員企画による狂言鑑賞会（京都市主催第一六四回市民狂言会参加・京都観世会館）が行われた。

◇一二月一四日(土)・一八日(水)　学生委員企画による「顔見世鑑賞会」が行われ、京都南座で「摂州合邦辻」「連獅子」などを鑑賞した。

◇一二月一七日(火)　第一五回月例会が開かれ、森山由紀子先生が「日本語の歴史を探る楽しみ」と題して話された。

◇一月一一日(土)　学生委員企画による百人一首かるた大会が知徳館四二〇教室において行われ、上位入賞者には賞品が贈られた。

◇三月一〇日(月)　学会の「会報」第二〇号が発刊された。

学会活動記録（平成九年度前期）

◇四月二四日（木）　第十六回月例会が開かれ、高桑法子先生が「鏡花の演劇について」と題して話された。

◇四月二六日（土）　学生委員企画による歌舞伎鑑賞会（南座主催第五回歌舞伎鑑賞教室参加）が行われた。

◇五月一六日（金）　第十七回月例会が開かれ、門前正彦先生が「人間とことば」と題して話された。

◇六月一四日（土）　日本語日本文学会の第十二回総会及び記念講演会が知徳館二八三教室で行われた。奈良女子大学教授の坂本信幸先生が「萬葉びとの恋の一端―巻四、六六九番歌の訓詁をめぐって―」という題目で講演された。

◇六月一七日（火）　学生委員企画による狂言鑑賞会（京都市主催第一六六回市民狂言会参加・京都観世会館）が行われた。

◇六月二二日（日）　学生委員企画による文楽鑑賞会（国立文楽劇場主催第十四回文楽鑑賞教室参加）が行われた。参加者を代表して本学会員一名が舞台上で実際に人形を操った。

◇六月二六日（木）　第十八回月例会が開かれ、河野俊之先生が「日本語教育について」と題して話された。

◇七月一〇日（木）　学会の「会報」第二一号が発刊された。

会員著書紹介

吉海直人

『小倉百歌伝註・百人一首伝心録』（共著）　和泉書院

一九九七年六月一五日

安森敏隆

歌集『わが大和、わがシオン』（単著）　玲瓏館

一九九六年一一月二三日

『近代短歌と現代短歌』（安森敏隆・末竹淳一郎編）　双文社出版

一九九七年三月三一日

高桑法子

『幻想のオイフォリー』（単著）　小沢書店

一九九七年八月三〇日

「同志社女子大学　日本語日本文学」投稿規定

一、当誌は同志社女子大学日本語日本文学会の機関誌として、会員に学術的研究の発表の場を提供するものです。会員の意欲的な投稿を広く募ります。

二、論文は原則として四百字詰原稿用紙で三〇～四〇枚程度、資料、翻刻等は一回の掲載を六〇枚程度とします。この範囲を超える場合は、採否を編集委員会にご一任下さい。（ワープロ使用の際は四百字詰原稿用紙に換算した枚数を末尾にお示し下さい。また図版、写真などがある場合は挿入箇所を指示したうえで、提出して下さい。）

三、注、引用の体裁は統一を図らせていただきます。特別の場合を除き、校正は再校までとし、以後は編集委員会の校正とします。原稿は返却しますが、必ずコピーをとってご提出下さい。

四、第十号締めきり　一九九八年三月末日厳守。（原稿は日本語日本文学会事務室知徳館三一四号室宛にお送り下さい。）

執筆者紹介

寺川眞知夫（てらかわ・まちお）　学芸学部教授
安森敏隆（やすもり・としたか）　学芸学部教授
吉野政治（よしの・まさはる）　短期大学部教授
森山由紀子（もりやま・ゆきこ）　短期大学部専任講師
吉海直人（よしかい・なおと）　学芸学部助教授
生井知子（なまい・ともこ）　短期大学部専任講師
河野俊之（かわの・としゆき）　短期大学部専任講師
丸山敬介（まるやま・けいすけ）　学芸学部助教授